

はたらく

JR東日本鉄道マンが証言

駅員や乗務員など鉄道職員に対する暴力がやまない。日本民営鉄道協会（民鉄協）が把握しているだけで、被害は年間九百件を超える。乗客による暴力は、鉄道職員にとって職場の安全を損なうばかりか、列車の運行を妨げる原因にもなる。ＪＲ東日本の鉄道マンが、東京都内であつた暴力事件について本紙に証言した。（三浦耕喜）

列車の

証言1 「生意気だ」と7人が暴行

証言2 押し倒されて線路に転落

証言3 頸椎損傷で左半身不随に

た。後日、示談が成立し、加害者らは起訴猶豫になったという。

ホームから線路上に落とされたのは、快速に乗務していた車掌（三宅）。昨年一月二十日午後三時二十分ごろ、三鷹市の三鷹駅に到着してホームに出た際、五十代の男の乗客から「なぜ、車掌室の遮光カーテンを閉めたのか」と責められた。

車掌は言う。「『すみません』と謝っても『なんだ、その態度は』『』と罵声を浴びた。』

逮捕されたが、示談が成立した。

左半身がまひして職場復帰できないままの男性（三宅）もいる。勤務する武蔵野市の武蔵境駅で二〇一〇年一月十日午前四時二十分ごろ、駅を開けた直後に被害に遭った。

男性は「具合の悪い人がある」と若い男に言われ、改札脇に行くど、うずくまった男がいたそつだ。すると、最初の若い男がネームプレートを見て「〇〇（他者の名前）じゃないけど、まあいいか」

警察が駆け付けたが、加害者は逃走し、捕まっていない。

男性は頸椎捻挫で二週間ほど休養。一度は職場復帰したが、それから症状が悪化。頸椎損傷が原因とみられる「左半身不随」と診断され、現在も休職している。男性には妻と二人の娘がいる。契約社員で正社員に登用されなければ、来年九月の契約期限切れで収入は途絶える。

該当する名前の駅員は同駅に勤務していない。

胸ぐらをつかまれて押
し倒され、線路に落ち
た」。自力ではい上が
り、全治一週間のけが
で済んだが、線路に落
ちるのは重大事故とな
りかねない。加害者は
逮捕されたが、示談が
成立した。

警察が駆け付けた

6月28日付 東京新聞

民鉄協によると、JRと私鉄、地下鉄の駅や車内で二〇一一年度に駅員、乗務員が客から暴行を受けた事件は全国で九百十一件に上り、過去最多だった〇九年度の八百六十九件を上回った。七月三日に公表される二二年度のデータも高止まりが続いているという。

各社とも暴力追放キャンペーンを進めるが、加害者は乗客でもあることから、職員が

被害を受ける個別事件は公表されないケースが多い。逮捕されても、示談で穏便に処理するのが通例という。

J 東労組八王子地方本部では「数字に表れない暴力行為も多い。ポスターを張ってマナーを訴えるだけでは暴力行為を根絶できない。暴力には、客でも毅然と対応し、個別事件も公表して、情報を現場に周知させるべきではないか」と指摘している。

八王子地本が取り組んだアンケート調査の報告も取り上げられています！

暴力は犯罪です！安心して働ける職場を創るため職場で議論を深めよう！